

## 奥秩父 大洞川荒沢谷～狼谷

山川

【日時】 2013年7月13日(土)～14日(日)

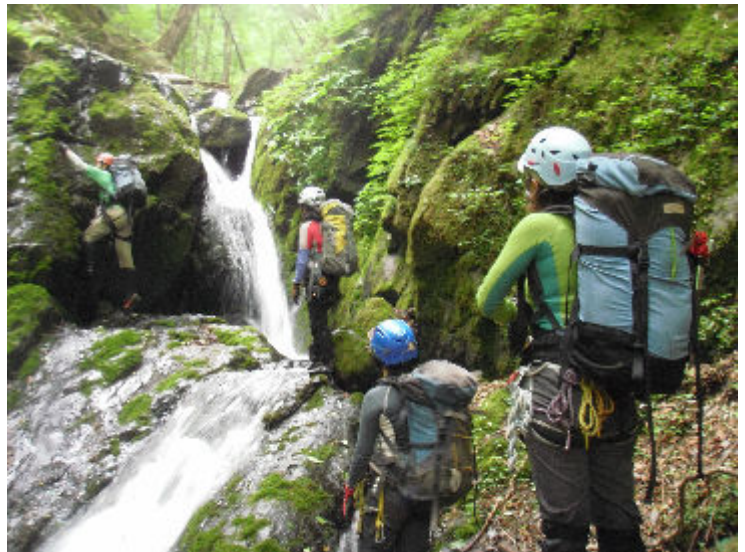
【メンバー】 L田辺、SL山川、前田、矢野、田宮(会員外)

雨天に振り回され、当初予定の会津を諦め、さらに南アルプスや蓼科方面を断念、最後に大洞川荒沢谷に落ち着く。道の駅みとみにて翌日鶏冠尾根へいく工さんもまじえて前夜宴会。翌朝は雁坂トンネルをこえて大洞林道サメ沢のゲートに駐車。徒歩1時間で荒沢橋から入渓した。



しばらくは平凡なゴーロがつづく。アシ沢をすぎた5m小滝は田宮さんが真っ先に右からへつって攀じ登る。次のベンガラベンガラの滝は、左岸のチョックストーン脇を抜けられそうだが、今回は右岸をまき立木から5m懸垂。すぐに菅ノ平と呼ばれる棚があらわれる。將軍の謁見の間くらいある広々したテント適地だ。トマ全員で宴会ができそうである。途中釣りを2時間ほど交えながら、のんびり遡行する。田宮さんに大物2匹の成果。

珊瑚のような淡いベンガラ色の岩が美しい。時折パラパラと気まぐれな雨模様が岩にしみていくものの、持ちこたえている。私の場合は晴れていても水につかる気がしないが、今日は水河童たちもさすがにつかる気にならないらしく、水線をさけてへつっている。



まもなく井戸淵のゴルジュがあらわれる。これは左を巻く。しかし巻きが悪かった。足元は土ごとくずれていくし、柱状節理の大きな岩がボロボロ落ちてカムもきかない。

危ないので、別のラインを探すことにするが降りるのも一苦労だ。先頭の矢野さんにアンカーになってもらい、そろそろとおおりて、先に50mほど戻って巻き道を探している田宮さんたちに合流。こちらのラインも踏み跡を見失ったようで1箇所微妙である。念のためザイルをだして確保に切り替える。その先は尾根沿いに井戸淵二段目のすぐ上におりる。ちょうど狼沢の出会いである。

途中利香さんのザックが壊れてしまい、補修しつつ、少し先の1250mの沢の屈曲点を幕場とする。夕食は、久々の岩魚をたのしみ、奈映さんのイカチリ海鮮ご飯と、卵スープでしめる。焚火の傍らで線香花火の迸る火花を眺めていると、日本の夏はいいな、としみじみ思う。

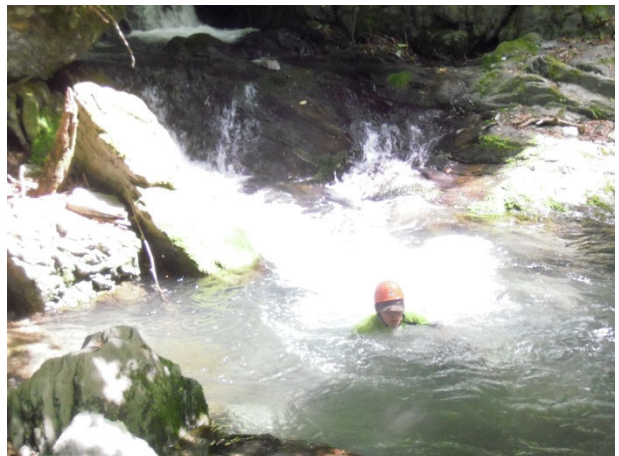


翌朝は5時過ぎに起床。7時出発。この先はとくに滝もなく、のんびりと遡行する。二俣で北雲沢にはいる。溪相は苔に覆われ奥秩父らしい柔らかな気色だが、方々で崩壊がすみガレが多い。鹿の食害か、下草もまばらで森が寂しいのが残念だ。次を右俣、左俣、右俣、右俣とすすみ、詰めはガレもなく藪もなく、稜線鞍部にでる。そのまま登山道を

たどって狼平をめざす道程で、滅びた狼に話がおよぶ。壊れた生態系に思いを致して傷的になる傍らで、利香さんの一言。『発見したら一匹で一億円くらいになるよ。どこから連れてこようか。生態系も戻るし一石二鳥だね。』本当につれてきそうな勢いである。

狼平は湿原状のすがすがしい草原で、長めの休憩ののち狼沢へ下降する。

今日は昨日と打って変わって連日の猛暑に逆戻りで、汗がふきだす。足をいたわって、菅ノ平から釣人の踏み跡をたどるが、これが上下に激しくふる道で、蒸し暑さに拍車をかけ、沢を下降したほうが楽な気がする。





奈映さんと田宮さんは、桂沢の沢床におりて休憩をとるや、釜に飛び込んでをひと泳ぎ。

桂沢から20分で荒沢橋。林道を急いでいると、前方より人影が近づいてくる。工さんがお迎えにきてくれたのだった。

はやぶさの湯は、こじんまりとしているが、湯がつるつるで良い温泉だった。民家を改装した作りや富士山を借景にした眺めもなかなか風情がある。露天が道路からみえる点を除けば、二重丸の湯だった。

【グレード】 1級上

【行程】 7/13 鮫沢 (8:00) ～荒沢橋 (9:00-15)～桂沢 (10:00)～釣2H～1140m付近  
(13:30-45) ～1250m屈曲点泊 (16:00)

7/14 BP (7:00)～北雲沢～稜線1775m鞍部 (9:20-30)～狼平 (10:10-30)～井戸淵  
手前二俣 (11:30) ～荒沢橋 (14:00-15)

【地図】 雲取山